

決勝前のフリー走行では5番手につけて、チームの士気上がる 2戦連続完走で、また得られた手応え、貴重なデータ

全日本選手権フォーミュラ・ニッポン第4戦 ツインリンクもてぎ(4.801km)

2011年よりLe Beausset Motorsportsは、新たに国内トップカテゴリーの全日本選手権フォーミュラ・ニッポンに挑むことになった。その第4戦が8月6日(土)、7日(日)の両日、栃木県・ツインリンクもてぎで開催された。擁するドライバーは、昨年まで全日本F3選手権をともに戦っていた嵯峨宏紀。シャシーこそワンメイクながら、エンジン選択が許されるカテゴリーにおいて、トヨタRV8Kを搭載しての参戦となる。

なお、今回は茂木町とツインリンクもてぎが招待した福島県相馬市の小学生を、地元チームということでサポーターズシートに招くことになった。加えて、今回と最終戦のもてぎラウンドは、「道の駅もてぎ」のサポートを受けることが決定。普段のレース以上に高まる注目に、しっかりと気を引き締めて挑むこととなった。



予選

8月6日(土) 天候/曇りのち晴れ コース状況/ドライ

土曜日の午前中に行われたフリー走行では、周回を重ねるごと、そしてピットに戻りセットアップを進めるごとタイムを上げ、最終的に1分37秒270を記録して15番手につける。トップとの差も前3戦より縮まっており、そのあたりに確かな進化をうかがわせた。

午後からの予選、Q1にはコースオープンと同時に走行を開始する。気温や路面温度の上昇も著しく、アタックのチャンスは1周のみと判断。ニュータイヤに素早く熱を入れてアタックにかかり、まずは1分37秒729をマーク。この時点で12番手につける。

いったんピットに戻り、セッティングの微調整を行いニュータイヤを再度装着した後、残り6分となったところで再びコースへ。セクター1とセクター2でコンマ7秒ベストタイムを更新していたが、セクター3で前車のスローダウンに行く手を阻まれタイム更新を不意にされてしまう不運にあい15番手に。あと一步のところまでQ2進出は逃したものの、セットアップやドライビングにはチームともども納得の内容で予選を終えることになった。



決勝

8月7日(日) 天候/晴れ コース状況/ドライ

日曜日の早朝に行われたフリー走行では、まず1周をチェックに充ててピットイン。周回を重ねたタイヤでグリップのピークが落ちた状態をチェックするため長く周回を重ねた後、レースで用いるのと同様の状態のタイヤに履き替えて再びコースに挑んでいく。

ここでは1分38秒088をマークして5番手につけることに！ その後も大きくタイムを落とすことなく周回を重ね、来る決勝での追い上げに期待がかかる上々の仕上がりで決勝を迎えることになった。

今回も2回のピットストップ、タイヤの4本交換義務づけがあるが、レース距離は前回より50km増えて250kmに。前回はスタート時に燃料満タンで無給油作戦を実施したが、2回のピットいずれも給油を行うこととした。スタート前のピットウォーク終了時には、相馬市の子供たちがピットを訪問。子供たちの「がんばって〜」という声援にチーム全体の志気も上がる。

日差しは照りつけるほどではないが、8月のレースらしく暑さをもライバルとすることに。集中力が問われるスタートにおいて、国本雄資(cerumo・INGING)、武藤英紀(REAL RACING)、中島大祐(NAKAJIMA RACING)を抜いて12番手に浮上。その勢いで前を行くアンドレア・カルダレッリ(KONDO RACING)にも迫っていったが、3周目の2コーナーでアレキサンドレ・インペラトリー(SGC by KCMG)に押し出されて、2コーナーでコースアウト。この際にホイールにダメージを負ってしまう。

それでも20周目まで最初のピットストップを遅らせたこともあって、一時は6番手にまで浮上。約14秒の素早いタイヤ交換、そしてダメージを負ったホイールを交換できたことにより、ペースが一気に上がっていく。14番手から8番手にまで上がった36周目に、最後のタイヤ交換を行うことに。この時の作業がスムーズにいかず16番手にまで順位を落としたものの、38周目にはベストタイムとなる38秒152をマーク。これは全体の11番目に相当する。結果こそ16位に留まったとはいえ、今回も収穫は多く、今後につながるレースとなった。次回のレースは9月3~4日に鈴鹿サーキットで開催される。



Driver
嵯峨宏紀
Keki SAGA
COMMENT

今回はセッティングが持ち込みから決まっていたので、すごく乗りやすかったのですが、予選では引っかけたまま最後のアタックでタイムが伸ばせませんでした。Q2進出の手応えがあったんです。日曜日も朝のフリー走行では5番手につけて、みんなに喜んでもらえましたし、スタートも決まってくまく前に出られたことも含め、前回以上に確かな手応えを得られたレースでした。第2ステイメント以降のタイムが良かったので、少しだけツキはなかったのですが、ポジティブなレースができました。僕はまだチャレンジャーなので、これからも前を向いて頑張っていきます！

チーム監督
坪松唯夫
Tadao TSUBOMATSU
COMMENT

チームの地元開催ということで、沢山の応援を戴いた。初日フリー走行から予選、決勝日のフリー走行と順調にタイムが上がり、チームに係わるスタッフ一人一人の士気が高まった。決勝の戦略は2回のタイヤ交換が義務付けられていることから新品タイヤでスタートし22周、15周、15周と繋ぎ、周回分の燃料を給油する作戦を立てた。最後の15周となるピット作業ではタイヤ交換がスムーズに進まず大きなタイムロスをしてしまいドライバーに負担を掛けてしまったが、最後まで良い仕事をしてくれた。チーム・ドライバーとも階段を一步上がる毎新たな課題に直面すると思うがこれからも確実に成長し進化して行く。

順位	車番	ドライバー	チーム	予選順位
1	1	J・P・オリベira	TEAM IMPUL	1
2	36	A・ロツテラー	PETRONAS TEAM TOM'S	2
3	37	中嶋一貴	PETRONAS TEAM TOM'S	4
4	41	塚越広大	DOCOMO TEAM DANDELION	3
5	2	平手晃平	TEAM IMPUL	8
6	40	伊沢拓也	DOCOMO TEAM DANDELION	5
7	8	石浦宏明	Team KYGNUS SUNOCO	14
8	7	大嶋和也	Team LeMans	6
9	31	中嶋大祐	NAKAJIMA RACING	11
10	11	武藤英紀	HP REAL RACING	15
11	18	A・インペラトリー	SGC by KCMG	17
12	33	国本雄資	Project μ / cerumo・INGING	12
13	3	A・カルダレッリ	KONDO RACING	13
14	16	山本尚貴	Team 無限	7
15	10	小林崇志	HP REAL RACING	10
16	62	嵯峨宏紀	Le Beausset Motorsports	16
リタイア	32	小暮卓史	NAKAJIMA RACING	9

